

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2151号

2013年02月25日（月曜日）

《 Kuroda for BOJ ? 》

今週のマーケットにとって最大の関心事は、「月曜日の早朝段階で日本のマスコミ各社の報道がかなり揃ってきた“黒田・日銀総裁”の指名・誕生となるかどうか」でしょう。私がこの文章を書いている時点で、日経新聞が

『政府は24日、3月19日に退任する日銀の白川方明総裁の後任にアジア開発銀行（ADB）の黒田東彦総裁（68）を起用する人事案を固めた。安倍晋三首相が掲げる「大胆な金融緩和」を支持しており、国際金融界とも太いパイプを持つため適任と判断した。副総裁には学習院大学の岩田規久男教授（70）を充てる。もう1人の副総裁には日銀から中曽宏理事（59）を昇格させる案を軸に検討。週内に衆参両院に提示する。』（25日午前2時配信の会員向けネット記事配信）

と報じている。黒田説に関しては、共同通信も24日の深夜の段階で「安倍晋三首相は24日、次期日銀総裁に黒田東彦アジア開発銀行総裁（68）を充てる意向を固め、最終調整に入った」との記事を流しており、あと朝日、読売も25日午前3時になってそろって「日銀総裁に黒田氏提示へ」との予測記事を掲載した。テレビではTBSが比較的早く「黒田説」を確定的に流している。もっとも日経の記事には「黒田氏にはすでに就任を水面下で打診している」という一文があり、本人の了承を得ていない段階での報道先行である事を示唆している。加えて黒田氏の日銀総裁就任には、衆参両院の同意が必要である。

黒田・アジア開銀総裁（68歳 1944年生まれ）は為替の世界に生きてきた人間にとっては、非常に馴染みの深い人だ。「ミスター円」と呼ばれた榊原英資氏（1941年生まれ）の次の世代の有力財務官で、国際金融局の次長や局長を経た後に財務官と、順調に大蔵省・財務省の中で経歴を積み上げてきた。財務官だった1999年から2003年には大規模な円売り介入を展開し、「ミスター円」（榊原氏に与えられたニックネーム）ほどはマスコミ用語にはならなかったが、「円高ファイター」として知られた。

これまで黒田氏の日銀総裁就任に大きな障害があると言われていたのは、戦後ずっと日本が独占してきたアジア開発銀行（ADB）の総裁の椅子を「中国に取られてしまうかも知れない」という点だった。黒田氏のADB総裁の任期は2016年までで、あと3年もある。今朝出ている一連の「黒田報道」では、ADB総裁の椅子がどうなるのかについて触れた記事は

ない。「今ならまだ日本人を ADB の総裁に送り込める」との判断があったのか、それとも「ADB の総裁の椅子を他の国の人に譲るかも知れないが、次の日銀の総裁は黒田氏が最適」との判断があったのかどうかは不明だ。多分後者だろう。

日経新聞の記事に「黒田氏は日銀に一定の物価上昇率達成を掲げて金融政策を運営する物価目標の導入を早くから求めてきた積極緩和論者」と書かれていることでも分かる通り、安倍首相とのケミストリーは非常に合っていると思われる。今朝 Wikipedia を調べたら、来月の5日発売予定の『世界は考える』（土曜社 <http://www.doyosha.com/06-ソロスほか-世界は考える/>) では、安倍晋三首相と共に数少ない日本人として寄稿している。

《 may have a big impact on markets 》

まだ新聞辞令の段階とは言え、世界中が注目していた白川・日銀総裁の“次”が黒田さんに決まる、と言うことは、マーケットにも影響を与えるでしょう。二人とも存じ上げているので比較させていただくと、25日早朝段階での Wikipedia の記事の長さを榊原英資氏と黒田東彦氏で比べてみると、その長さは榊原氏の方がはるかに長い。それは榊原さんの派手な行動に比べて、黒田さんのどちらかと言えば堅実で目立たない性格（榊原さんと比べて）を良く表している気が筆者はする。

ということは大蔵省・財務省の出身者であり、「財務省出身者は駄目」と言っている「みんなの党」の同意は得られないにしても、他の党（民主党を含む）からはそれほど強い反対論は出ない可能性が強い。黒田さんは財務省の保守本流と言われる主計局系列からは外れている。自民・民主などの合意により「事前報道ルール」は解消されている。事前報道されたことはあまり問題にはならないだろう。安倍首相が指名したら、本当に「黒田・日銀総裁」が誕生する可能性が強いと思われる。直近のインタビューでは「(アジア開銀の総裁としての)今の仕事に満足」と述べているが、首相のたつての指名とあれば断らない、と筆者は見る。

もし仮に「黒田・日銀総裁」が誕生すれば、安倍首相がいわゆる“アベノミクス”と呼ばれる経済政策を遂行する上では、十分な環境が整うことになる。

1. IMF は G20 に提出した報告書で、急速な円安を契機とした「通貨安競争」への懸念は「誇張されている」と指摘、日本銀行の金融緩和策が円安誘導ではないという日本政府の主張に沿った内容だった（読売の記事から）
2. 安倍内閣支持率もマスコミ各社の調査で軒並み70%を超えてきた（直近では日経とテレビ東京の調査で「22～24日に実施した世論調査で安倍内閣の支持率は1月末の前回調査から2ポイント上昇し70%となった」となっている）
3. 直近の訪米でオバマ米大統領との「ケミストリーも合い」（安倍氏の弁）、「安倍氏の強いリーダーシップを期待する」との言葉を大統領から引き出して、アベノミクスに米側の理解と支持を取り付けた

4. 懸案の一つであった TPP への日本の参加についても、「全ての関税撤廃を前提にしないことを確認できた」として、今週中にも「参加表明」という段階に至り、国民の TPP への支持率も上がる中で、この問題での大きな前進が期待できる状況になった

などだ。TPP に関して日本側の理解は（１）日米両国ともに２国間貿易上のセンシティブティ（敏感な問題）が存在する（２）最終的な結果は交渉の中で決まる（３）一方的に全ての関税撤廃を約束することを求められない— ことを日本側が提起し、オバマ氏も同意したとなっている。環境が諸々整ったという意味では、安倍政権の誕生見通しが強まった段階から生じていたものの、この２週間ほどは足踏みしていた円安・株高がその歩みを再び始める環境は出来上がりつつあると思われる。

しかしこの週末に筆者が注目したのは「Fast Money Pulls Back on Yen Trade (http://online.wsj.com/article/SB10001424127887323864304578319912446184602.html?mod=WSJASIA_hps_LEFTTopWhatNews)」という記事だ。アベノミクスにかけて今までの円安で大きく儲けてきたヘッジファンドや世界の投資家は多いが、その中に「円安局面は一旦終わった」と考える向きが増えているという記事だ。記事の中の文章の一つは

「Now, some investors are taking money off the table. Some brokerages predict the yen will retrace much of its slide, saying Mr. Abe's economic policies —dubbed "Abenomics"—might not be as successful as the prime minister intends.」

となっている。確かにドル・円では 95 円到達を、株では日経平均で 11500 円超えからの前進でマーケットには逡巡が見られる。ニューヨークの株で言えば「新高値（14164 ドルの過去最高値）更新に当たっての逡巡」と言える。世界の市場を見ても、ややレジスタンスが見えた段階だ。この記事には、ドル・円は 80 円台のローに戻るとの見方も紹介されている。

そうした中で世界の投資家達（ヘッジファンドを含む）が「黒田・日銀総裁が学習院大学の岩田規久男教授（70）を副総裁として従えながら、どのような金融政策」をどう考えるのかは注目だ。岩田氏は、物価目標と強力な金融緩和を主張して、これまで日銀の伝統的な金融政策を痛烈に批判してきた。黒田氏よりはるかに日銀の今までの政策に対する批判は強かった。新生日銀執行部は、「円安誘導と見られない外債の購入」をメニューから外すにしても、大幅に積極的な金融緩和策を取るはずだ。それは円安と株高に拍車をかけると考えられる。

今週からの市場はその“思惑”と、「円安、株高に一服感の出てきた市場センチメント」とのせめぎ合いになる。

今週の主な予定は以下の通り。

0 2月26日（火曜日）	米 12月 S&P/ケース・シラー住宅価格指数 米 12月住宅価格指数 米 1月新築住宅販売件数 米 2月リッチモンド連銀製造業指数 米 2月消費者信頼感指数
0 2月27日（水曜日）	米 1月耐久財受注 米 1月中古住宅販売成約
0 2月28日（木曜日）	2/23までの対外及び対内証券売買契約等の状況 1月鉱工業生産・速報 米 2/23までの週の新規失業保険申請件数 米 第4四半期 GDP・改定値 米 2月シカゴ購買部協会景気指数
0 3月01日（金曜日）	1月全国消費者物価指数 1月失業率 1月有効求人倍率 米 1月個人所得・個人支出 米 1月 PCE デフレーター 米 2月ミシガン大消費者信頼感指数・確報値 米 2月 ISM 製造業景況指数 米 1月建設支出

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。今朝この文章を書いている段階でコンピューターのデスクトップを見たら、「0度」となっていました。まだまだ寒い。

寒いと言えば、「数年に1度レベルの非常に強い寒気が北海道と東北北部に流れ込み、24日は日本海側の各地で猛吹雪となった。青森市・酸ヶ湯で、現在ある気象庁の観測地点で過去最高を更新する5メートル29センチの積雪を記録。北陸以北の多くの地点で平年比1.5～4倍程度の積雪となっており、雪による死者は全国で70人に迫っている。80年代以前と同程度の積雪でも被害がかつてより深刻化している背景には、豪雪地帯の急速な高齢化の影響がある」という記事も見つけました。

「酸ヶ湯」ですか。去年でしたかね。行きました。十和田湖に行った折に。もう春が来ていたのに、この温泉の近くはまだ雪が2メートルほど積もっていました。道路だけは除雪されていた。乳白色の珍しい温泉です。ファンが多いようで、「近くの宿舎はなかなか取れない」とのことでしたが、これだけの大雪の中でも湯治客は来ているのでしょうか。また機会があったら行きたい場所です。

それでは皆さんには良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》